



子育てママに好評！

公民館の保育室併設講座

## ママも子どもも輝いて ワークライフバランスを目指す その1



福生市の公民館では、保育室併設講座を長年にわたり実施し、好評をいただいています。この講座は、公民館3館（本館、白梅分館、松林分館）で、子育て中の母親を対象に保育室に子どもを預け、親も子どもも共に育ち合う場として開設しています。

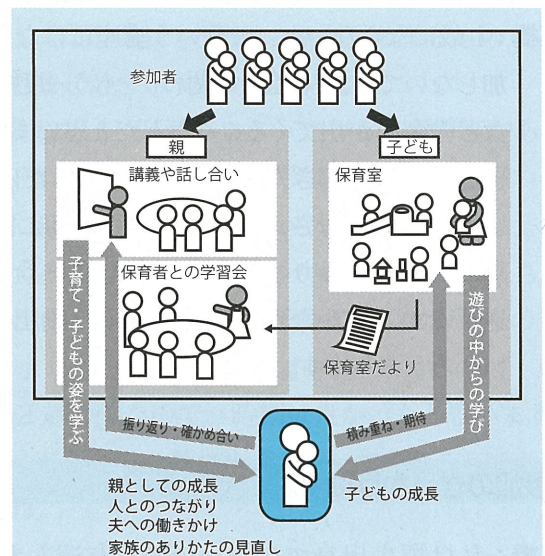
子どもは母親と離れ、仲間とのかかわりを通して自立心や社会性を習得します。その手助けを公民館保育者は「子どもにとって」という視点を大切に、保育を通して行います。

母親は子どもと離れ、講座のテーマを講師の講義や話し合いなどにより学びあいます。また、保育者を交えての学習会では、保育室での子ども達の様子を通して、子育てや暮らし全般について話し合いを行っています。（右図参照）

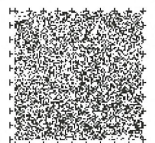
親も子もそれぞれの時間を過ごすなかで成長し、参加者同士のつながりから新たな気づきがあったり、親子関係を振り返ったり、さらには夫とどのように子育てや家族作りをしていくかなど、ワークライフバランスの考え方や家庭生活の見直しに役立っているようです。

この講座に参加された方と、保育を担当されている方からのお話を伺いました。

今号では、その1として講座に参加された方のお話を掲載しています。（次号のvol.40では、その2として保育担当の方のお話を掲載します）



目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「SPコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、今号の内容を要約した文字情報を音声で聞くことができます。専用の読み取り装置は市内の公共施設9か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。





講座に参加したお二人にお話を伺いました。

高橋さん…福生市在住。夫とお子さん1人の3人家族

針生さん…福生市在住。夫とお子さん2人、夫のご両親の6人家族

聞き手：

市編…市民編集員 / 数名

(市民編集員の中にはこの講座の受講経験者がいます。)

## どんな講座でしたか？

**針生：**子どもに対しての言葉かけ、勇気づけなどを学びました。

**高橋：**例えばほめる時、「すごいねえ」と簡単にほめるより、相手の気持ちによりそうな声かけの仕方を教えてもらいました。子どもは小さいうちに自分の存在価値を知ることで、人を信用出来るようになる。ただほめて、すごいねえ、勉強が出来るねえ、というだけのほめ方では、勉強が出来ない自分はダメな自分になってしまうので、そういうほめ方よりも、「勉強をする」「勉強をした」という姿勢をほめてあげることが大事ということですね。

**針生：**子どもや他人を信頼して認められるようになるために、まずは自分を信頼すること。自己肯定感が大事なんだということも学びます。

**市編：**参加者のお子さんの年齢は？

**高橋：**講座当時は2歳です。

**針生：**うちも2歳でした。上は3歳まで、全体的には2歳が多かったです。

**高橋：**1歳にならないと、こういう講座にはなかなか参加しないです。“社会との関わりをもう一度持ちたい”などの余裕が出てくるころなんだと思います。私も子どもが1歳過ぎたころから家にいるだけでなく、いろいろなお母さんと話したいと思い、講座に参加するようになりました。子どものほうも1歳を過ぎないとなかなか時間どおりに行動出来ないというのがあります。

## 参加のきっかけは？

**高橋：**私は福生出身ではないので、友達も少ないし、親も近くにいないので、つながりを探していました。この講座をママ友から聞いていましたが、子どもの対象年齢が1歳以上でしたので、子どもが1歳になるのを待って参加しました。自分の立場が社会



からみてどういったポジションなのかを知りたかったし、子どもと少し離れた時間を過ごしてみたいという気持ちも正直ありました。

**針生：**私は広報を見て知りました。福生に引っ越してきて1年ぐらい経ち、私自身友達も欲しかったし、子どもの友達を作ってあげたいと思ったのがきっかけでした。初めはドキドキでした。上手くやっていけるか心配でしたが、講師の方も、保育者の方も参加されている方も良い方で、すごく話しやすく、今では一緒に学んだ仲間と遊ぶようにもなりました。

## 子どもを預けて学ぶということ

**高橋：**子どもを預けることに罪悪感を持つ人が多いんですよ。私も預けるときに泣かれ、苦しいと思いました。講座の中でもそのことを話し合ったのですが、実は親がそう思いこんでいるだけで、罪悪感を持つ必要はなかった。子どもも親と離れることで、お友達との楽しい時間を持つことが出来たのですから。

**針生：**離れる時間を持つことが子どものためになることもあると思いますし、そこでの子どもの成長を感じました。

**市編：**親子それぞれ別な部屋で過ごすのですか？

**高橋：**そうです。「当日は別れることを子どもに必ず言い聞かせて来てください、何も知らせないままパツときてパツと預けていなくなるのはやめてください」と保育者の方には言われています。「お母さんはこっちの部屋でお勉強しているから、あなたはあっちの部屋でいっぱい遊んでね。お勉強が終わったら迎えにくるからね。」と毎回言うと、最初はわからなくても、どんどん理解していきます。決まった時間に帰ってくると伝えれば、子どもは安心して遊

ぶ、ということや、まだ小さいから話しても分からないと思っていたけれど、ちゃんと分かるんだということも教えてもらいました。

**市編**：講座が終わってお子さんと再会する時、お母さんもお子さんも良い顔をしていますね。

**高橋**：“わーっ”という嬉しそうな顔と、“私一人で待っていたのよ、やった！”という顔をしています。

### 保育の様子を伝える“保育室だより”の存在

**高橋**：保育者の方が子ども達の様子を“保育室だより”にしてくださいます。「〇〇ちゃんと△△ちゃんが喧嘩して…」というのも実名で包み隠さず、そしてそれを題材にして話し合います。自分の子どもが普段おとなしいのにお友達を叩いた話を聞かされて、お母さんはショックを受けて泣いてしまったりすることもあります。保育室で起こったことを隠さず話すことが大事だと、賛否両論のいろいろな意見を話し合うことになります。保育者の皆さんの、他人ごとではなく自分のこととして捉えてほしいという思いが伝わります。子どもの様子は本当にドラマチックで、次の週に続きが始まることもあります。

**針生**：保育室での様子を包み隠さず教えてくれるので、こちら信頼して預けることが出来ます。

**市編**：この講座の保育室は単なる託児ではないので、実名を出し、ありのままの様子を皆さんに知ってほしいという狙いがあるようです。衝撃を受けるようなことも、実はそれが子どもの本当の姿で、お母さんという時は良い子でなくっちゃと思っていたのかもしれないですね。

### 夫の変化は？

**高橋**：講座中のアンケートでお父さんの意見を書いてもらったことがありました。

**針生**：“妻が生き生きしている”って意見もありました。

**高橋**：講師から「子育ては一人ではないで、夫も巻き込

みましよう」と言われました。逆に妻が育児をなんでもやってしまうのは、子育てを夫から奪っている。夫にオムツを替えさせるのはかわいそうと思って私がしてしまうのではなく、「オムツ替えてよ」と言って、やってもらうようにしました。

また、ママがいないと泣いてしまうので夫と子どもだけのお留守番は無理と思い込んでいたが、実際にやってみると、夫と子どもでも楽しい時間を過ごせ、パパも気分が良く、それで子育てにやる気が出た、という話もありました。

**針生**：講座の初めのころは「今日はこんな感じだったよ」と夫に話していましたが、「今日はどうだった？」と夫から興味を示してくれるようになりました。先日買い物先で講座の方に会って、紹介したら、「お友達が出来たんだね、参加して良かったね」と。初めは「なんで講座に参加するんだ？」と思っていたようですが、「参加して良かったね」と変化しました。

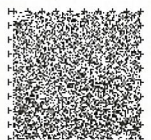
### 参加時期について

**市編**：参加時のお子さんの年齢が2歳ぐらいとのことですが、その時期が適切でしたか？

**針生**：1歳まではある程度、親の思いどおりになることが多いですが、1歳を過ぎると、子ども自身の主張が出てきて、どうしていいのかわからなくなるお母さんが多いと思いますから、1歳から2歳の時期がいいと思います。講座に参加して子どもの成長を感じました。

**高橋**：1歳までは、保健センターでやってる講座があります。1～2歳ぐらいになってくると、親の思いどおりにはならなかったり、いやいや期はあるし、ごはん食べないとか、好き嫌いが始まったりとか、ちょうどこの時期に同じような子育て中のお母さんの意見を求めたくなるのかもしれない。悩むのは1歳から2歳の間なので、時期は良かったと思います。ちょうど子どもも外に出たくなってくるころもあるしね。

目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「SPコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、今号の内容を要約した文字情報を音声で聞くことが出来ます。専用の読み取り装置は市内の公共施設9か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。





### 講座の大切さを知ってほしい

**高橋：**学生以来、学ぶ機会がなかったのですが、講座に参加して意欲がふつふつと沸いて、本を読み始めたりしました。いくつになっても自分磨きを始められるのだと再確認出来たし、期待以上の成果があったので講座のことは友人達に勧めています。

**針生：**この講座で子どもの年齢が違うお母さんと話すようになって、それまで子どもが同じ年のお母さんしか仲良くしようとしていなかった自分に気付いたんです。友達を作りたいという気持ちを持ちながら、自分で壁を作っていたのだと。友達をいっぱい作るきっかけを見つけられたと思いました。

**高橋：**講座の前に保育室の資料をいただくのですが、その中に自分の親の世代が子育てのことを書いてあるのを読むと、時代は変わっても悩みは同じなので、ホッとします。その時々で形は変わっていくのかもしれませんが、子どもを保育者に預け、そのあいだ母親は学習し、子どもも母親も成長していける講座をずっと続けていることに意味がありますね。いろいろな人に講座を知ってほしい。多くの人に情報が伝わるような広報やチラシの配布をしてほしいです。困っているお母さんは多いと思うし、そういう人こそ参加してほしい。

今はパソコンに頼る人が多いけど、私は生身の人と向き合ってほしいと思う。ちょっとしたことで考え込むお母さんが多いですが、実は悩むほどのことじゃなく、誰かにちょっとアドバイスなどを言って

もらえば気づけると思います。でもなかなか人に相談が出来ない。講座で顔を合わす機会を重ねて仲良くなると、「こういうのってどうなのかな」と自分から言えたり、「こういう時はこうすると良かったよ」とアドバイスされると、すごく救われます。

**市編：**友達だと、近いからこそ話せないことがあります。講座の仲間だと話せることもある。自分の悩みを言えた時が、自分自身の変わり目ですね。

**高橋：**「子育てに悩んでいる人どうぞ」という案内が結構ありますが、本当に悩んでいたら、なかなか行きづらと思います。今回の講座のように回数を重ねることがとても大事だと思います。自分が悩んでいたと気づく時間も必要だし、人間関係を築けないと悩みなんて話せない。長い講座だからこそこの良いところがあります。5回じゃ少ない、10回以上は必要だと思いますね。

**針生：**この人苦手かな…と思っていた人でも、回数を重ねて話していくと、自分と同じことを思っている人なんだということもありました。いろいろな人と接することで、考え方が変わったと思います。

**高橋：**子どもにとっても、この講座で友達作りの経験が出来たのが良かった。今、私の子どもは幼稚園に通っていますが、自然に友達と打ち解けられるのが、ありがたいです。親同士が仲良くなる以上に子ども同士のコミュニケーションは出来たみたいです。

次号では引き続き、保育担当の方に伺ったお話を掲載する予定です。お楽しみに。



### ご存知ですか？男女共同参画情報コーナー

輝き市民サポートセンター（福生駅西口プチギャラリー 4階）に各区市町村の情報誌や男女共同参画に関する資料を備えています。ご利用ください。

問合せ：輝き市民サポートセンター 電話 042-551-0166

### 市民編集員 募集中

「あなたとわたし」の編集員を募集しています。興味のある方は、協働推進課までご連絡ください。

### ご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。

本誌は、市民が作る市民のための情報誌です。感想をはじめ、特集で取り上げてほしいテーマなど、ご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。市ホームページ（トップページ左側の市民のご意見箱）からもお送りいただけます。

### 広告を募集しています！次号は10月発行予定です(全戸配布)

「あなたとわたし」に掲載する広告を募集しています。

【規格】 4.5センチ×9センチ。各号2枠

【広告料】 1枠：15,000円

※申込み用紙は市のホームページからダウンロードできます。内容により広告掲載できない場合がありますので、詳しくはお問い合わせください。

【問合せ】 福生市生活環境部協働推進課 Tel. 551-1590

市民編集員 ○輿水和代 ○寺崎敏枝 ○濱原幸恵

企画編集 NPO法人 NAFA子育て環境支援センター

### あなたとわたし vol.39 2012年8月号

発行：福生市 生活環境部 協働推進課

〒197-8501 東京都福生市本町5番地 電話 042-551-1590

<http://www.city.fussa.tokyo.jp/>